

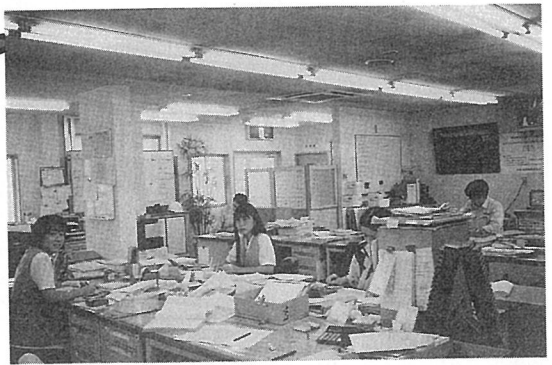
こんにちは

会社訪問記

小さな国の大きな資源を活かして、
地域社会の環境保全に貢献。

鹿島道路株式会社 知立リサイクルセンター

(愛知県知立市)



社内

のどかな風景に囲まれた知立市の東端にある鹿島道路株式会社 知立リサイクルセンターに伺い、建設廃棄物の有効利用等について篠原所長にお話をさせていただきました。

— 知立リサイクルセンターは何年から操業されていますか。

篠原所長 (以下篠原に略) 『昭和62年に操業を開始しました。以前は隣接する刈谷市で長年、アスファルト合材の製造販売を行っていました。建設廃棄物の排出量が飛躍的に伸び、適正処理及び有効利用に対するニーズが高まったことを受け、さらに大規模なりサイクル活動を行うべく開設されたのが当センターです。』



篠原所長

— 簡単に事業内容を説明していただけませんか。

篠原『県下で排出する建設廃棄物の中でも、発生量の多い建設廃材を収集・受入れ、破碎処理を行い再生品化しています。とりわけ道路やビル等の工事現場から出る建設副産物、アスファルトコンクリート塊、セメントコンクリート塊の受入れには積極的に取り組み、大規模な処理体制を整備して大量に再資源化を行っています。』

— 事業エリアを教えてください。

篠原『愛知県全域です。知立市を中心に収集は半径30km圏内、再生品供給は40km圏内で行っています。再生品の供給は直接施工現場に搬入、スピーディーで効率的な供給を目指しています。直接搬入の比率は全量の90%以上と非常に高い数字を誇っています。』

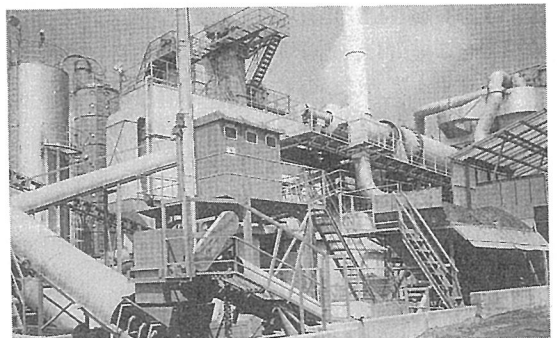
— リサイクル及び中間処理業に対する視線が熱い昨今ですが、当センターの存在意義についてどのように考えていますか。

篠原『当センターの基本理念は、産業廃棄物処理及び

再生品製造とも共通しています。それは、排出者と再生品利用者の活動を積極的にバックアップするとともに、双方のバランスのとれた関係の構築・調和を図る橋渡し役になることです。排出者の事業計画、再生品利用者の事業計画がマッチした理想的な需給を行っていくことが存在意義ではないかと思います。また、不法投棄や不適正処理等の社会問題を招かないように協力していきたいと考えています。当センター従業員が一致団結して、中間処理業のイメージアップに取り組み、環境保全や資源の再利用の機運がさらに高まるよう努めていきたいですね。』

— 従業員の方々も環境保全意識を持ち、積極的に仕事に取り組んでいるわけですね。

篠原『そうですね。営業担当者は情報収集や適正処理の指導活動を行い、センター業務に携わる者はそれぞれ業務を遂行することによって環境保全の一翼を担っていることを認識し、環境に対する使命感をもって毎日頑張っています。そのおかげで、昨年はリサイクル推進協議会主催の平成5年度リサイクル推進功労者等表彰事業において建設大臣賞をいただくことができこれも当センターの事業の有用性が認められた結果であると喜んでます。』



社名/鹿島道路株式会社 知立リサイクルセンター
所在地/愛知県知立市山屋敷町板張3 代表者/篠原勝重 創業/昭和62年
従業員/20名 TEL/0566(83)3231 事業所/リサイクルセンター
営業種別/中間処理(破碎)
取扱い品目/ガラスくず及び陶磁器くず、鋳さい、建設廃材